

浸水害から身を守る



雨の降り方と1時間あたりの雨量の目安

10～20mm
やや強い雨



ザーザーと降る

長く続く場合は
注意が必要。

20～30mm
強い雨



どしゃ降り

側溝や小さな水路
があふれる。

30～50mm
激しい雨



バケツをひっくり
返したような雨

道路が川のように
なる。

50～80mm
非常に激しい雨



滝のような雨

マンホールから水
が噴出したり土砂
災害が起こりやす
くなる。

80mm以上
猛烈な雨



息苦しくなるような
圧迫感がある雨

大規模な災害が発
生する恐れが高く、
厳重な注意が必要。

大牟田市を流れる河川の特徴

隈川、白銀川、堂面川、大牟田川は、川が短く幅も狭いため、雨が強く降ると急激に水位が上昇します。

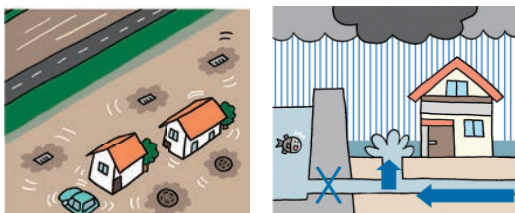
また、諏訪川は上流の南関町付近で雨が降ると、時間差で下流が増水し、**市内で激しい雨が降って**

いなくても、水位が上がる場合があります。河川の水位が上がると、河川が氾濫していなくても小さい水路からの排水ができなくなり、浸水することがあります。



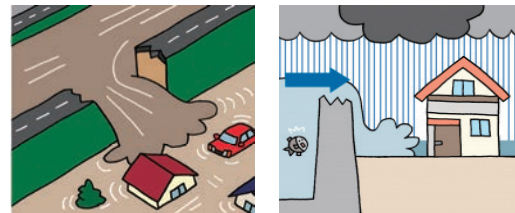
内水氾濫

局地的な大雨が降った場合などに、降雨量に対して排水が追いつかず内水氾濫が起こります。



河川氾濫・決壊

大雨の影響により河川の水が堤防からあふれたり、堤防が決壊して氾濫が起こります。



① 浸水した道路は危険

水が濁って足元が見にくくなり、フタが外れたマンホールや水路に転落の危険があります。杖や傘で足元を確認しながら避難しましょう。



① 原則歩いて避難

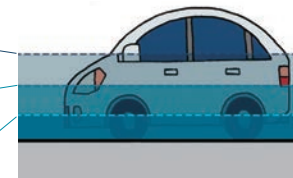
長靴は水が入って歩きにくく危険です。ひもで締められる運動靴を履きましょう。



① アンダーパスに注意

アンダーパスなど、周囲より低くなっている道路は、冠水しやすいので、車での通行は避けましょう。大牟田市内には、アンダーパスが2カ所あります。

水深90センチ
車が浮きはじめる
水深60センチ
水圧でドアが開かなくなる
水深30センチ
エンジン停止の可能性



詳しい場所は21～22ページへ

① 浸水したら、より高い場所へ

浸水している場所を避難するのはとても危険です。逃げ遅れたら、その場そのときに命を守れる場所へ！



① 気になっても見に行かない

大雨時に田んぼや畑の様子を見に行ったり、水路や川、海の様子を見に行ったりすることは流されることがあり大変危険ですので絶対にやめましょう。



① 積極的に情報収集

災害時には、避難情報や気象情報、河川水位情報など、様々な情報が発表されます。積極的に情報を入手し、避難のきっかけをつかみましょう。

国土交通省
「川の防災情報」

河川水位や市内の雨量計
の雨量を確認できます。



その他の情報の取得方法は11～12ページへ